



生駒市 SDGs未来都市計画

奈良県生駒市（2019年度選定）

<p>1.地域の特徴と課題及び目標</p>	<p>生駒市は奈良県の北西端に位置し、緑豊かな自然環境に恵まれ、大都市へのアクセスも良好であることから、関西を代表する良好な住宅都市として発展してきた。近年は、「子育てしやすいまち」としての評価も高まってきている。</p> <p>主な課題は若年層の人口減少への対応・老年人口の増加への対応、地域経済循環の活性化とライフスタイルの変化への対応等がある。</p>	<p>2.関連するゴール</p>	
<p>3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</p>	<p>いこま市民パワーによる地域の事業所・一般家庭への電力供給により、これまでは市外に流出していたエネルギーコストが市内にとどまり、資金の地域内循環による地域経済の活性化につながる。また、収益は、コミュニティサービスに活用され、地域課題の解決及び市民生活の質的向上につながる。供給電源は、市域の再生可能エネルギー由来の電源を最優先で調達することとしているため、再生可能エネルギーの普及拡大にも寄与する。</p>		
<p>4.自治体SDGs推進等に向けた取組</p>		<p>6.取組成果</p>	
<p>地域新電力である「いこま市民パワー株式会社」を核とした日本版シャットベルケモデルの形成を目指す。</p> <p>市内の太陽光発電の開発に取り組む市民団体「(一社)市民エネルギー生駒」からの電力調達をはじめ、市民や地域のステークホルダーと引き続き連携しながら取組を進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーの活用 いこま市民パワーでは、全国的に電力業界が厳しい状況にあるなか、供給規模を一部縮小しつつも引き続き地産再エネ電源などを活用しながら供給を継続。（再エネ比率15.1%） ●コミュニティサービスの実施 いこま市民パワーの収益を地域に還元して実施するコミュニティサービスとして、市内全小学校における1年生を対象とした「登下校見守りサービス」の一部無料期間を延長するサービス拡充を継続。市主催イベントにおいて参加者に対し再エネ意識啓発・取組周知などを実施。 ●資源循環・コミュニティステーションの設置 「複合型コミュニティづくり」事業として生駒市で自治会を対象に補助を実施したほか、いこま市民パワーがコミュニティサービスの一環として自治会の支援を行ったことにより、事業に取り組んでいた8自治会中3自治会で継続して実施。 	
<p>5.取組推進の工夫</p>		<p>7.今後の展開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●いこま市民パワーにおいて、地産再生可能エネルギー比率向上などの取組推進を図るため、環境省が公募する“脱炭素先行地域”の枠組みの活用を検討。令和5年4月の選定を受け、令和5年度から取組を開始する。 ●SDGsアクション活性化を図るため、「いこまSDGsアクションネットワーク」において、マッチング支援、SDGsセミナー等の企画を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年4月に生駒市はいこま市民パワーなどを共同提案者とし、環境省が公募する“脱炭素先行地域”に選定された。その事業計画はSDGs未来都市計画の取組をさらに加速させるものであり、SDGs推進により一層寄与するものである。 ●いこま市民パワーの収益還元ワークショップを実施し、市民・事業者へのSDGs啓発と地域課題の抽出を行っていく。 ●市内の多様なステークホルダーが参画する「いこまSDGsアクションネットワーク」において、勉強会やマッチングイベントの開催・事業補助など、会員支援の充実を続けていく。 	
<p>8.他地域への展開状況（普及効果）</p>	<p>視察受け入れ：「柏原市」「瀬戸内市」「長久手市」「東京市町村自治調査会」 事例掲載・紹介：「朝日新聞デジタル」「神戸新聞」「ニッポンの未来フォーラム 挑戦！カーボンニュートラル2022（主催：読売新聞、NHKエンタープライズ）」</p>		